くらしにやさしい街 … 志木、よりよい環境を未来に残すために

エコシティ志木通信

2018年9月1日
(No.91)

2018
*
9月

NPO法人エコシティ志木
代表理事　天田 眞
〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108
http://kappa-no.net/eco-shiki/

写真：天田 眞

志木につらなる川の風景（19）

新河岸川 ～砂川樋管（昭和２年）～

富士見江川合流点から上流へ。254 号バイパスや南畑橋を過ぎ、さらに上流の伊左島橋の手前の右岸側にある新旧２つ並んだ樋管が砂川堀の合流点。下流側の樋管は昭和初期の改修工事（多くの蛇行を直線化した改修）で造られたもので、この改修で新河岸川につくられた一連のコンクリート構造物の中で唯一現存するもの。２連アーチのデザインが珍しい。砂川堀最下流の両岸には蛇島調節池がある。砂川堀は狭山湖の北側から流れ出し、西武池袋線小手指駅・新宿線新所沢駅・関越道三芳 PA 付近を流れてきて、一部は暗渠になっている。流域下水道の雨水幹線として荒川右岸下水道事務所が管理している。（天田 眞）

身近な川の一斉調査 2018

新河岸川水系身近な川の一斉調査
身近な水環境の全国一斉調査

今年は志木中学校との日程が合わず、一斉調査日の６月３日（日）に当会メンバー４人で行いました。水質調査は、水を採取する現地で行う方法としました。いろは橋（新河岸川）＆栄橋（柳瀬川）⇒こもれびのこみち湧水⇒郷土樋管（東中央幹線）⇒宮戸橋（柳瀬川合流後の新河岸川）⇒秋ヶ瀬取水堰（荒川）⇒志木大橋（柳瀬川）の７か所の水を調査して志木市役所駐車場に戻ってきました。はじめは25度程度の気温でしたが、終わりころには30度程度まで上昇し、日陰を探しての作業となりました。最近は40度近くまで気温が上がるので、それに比べれば大したことの無い気温ですが、とても暑く感じた１日でした。今回も袋橋をやめ、赤野毛排水路の代わりに、カヤネズミ原っぱ下流側の郷土樋管（東中央幹線）の水質調査を行いました。荒川では、水上バイクやプレジャーボートが多く、下流で採取した水がかなり濁ってしまっていました。採取場所で水質調査していく作業は、全部の水を集めて一斉に水質調査するのと比べるとどうしても時間がかかってしまいます。来年は、志木中学校の参加を期待しています。（青木明雄）

2018年度の測定結果と考察　６月３日（日）午前実施　（天田 眞）

● **参加者数：**４名

● **調査地点：**７か所

新河岸川：いろは橋・宮戸橋
柳瀬川：志木大橋・栄橋
荒川：秋ヶ瀬取水堰（上流側取水口前）
湧水：いろは親水公園こもれびのこみち
東中央幹線：郷土樋管の新河岸川堤外側
※従来の赤野毛排水路に代え、東中央幹線（せせらぎのこみち地下の雨水排水路）流末の郷土樋管で測定

● **測定項目**

気温・水温

pH（水素イオン濃度）：７が中性、それより高いとアルカリ性、低いと酸性。

EC（電気伝導度）：水中の無機イオンの量を電気的に測定する。不純物が多いと数値が高い。

COD（化学的酸素消費量）：酸化剤で有機物を酸化した時に消費した酸素の量。数値が高いほど有機物が多い。

NH_4-N（アンモニア性窒素）・NO_2-N（亜硝酸性窒素）：窒素を含んだ汚染源がアンモニアになり、これが水中で酸化され亜硝酸に、さらに酸化されると硝酸になる。

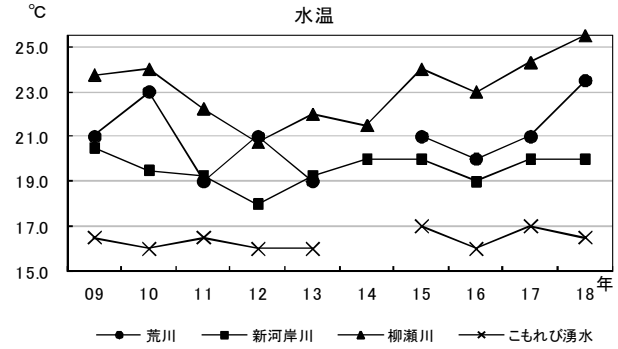
透視度：透明なパイプに測定水を満たし上から覗き込み、中の十字指標を動かして見えなくなるまでの深さ。

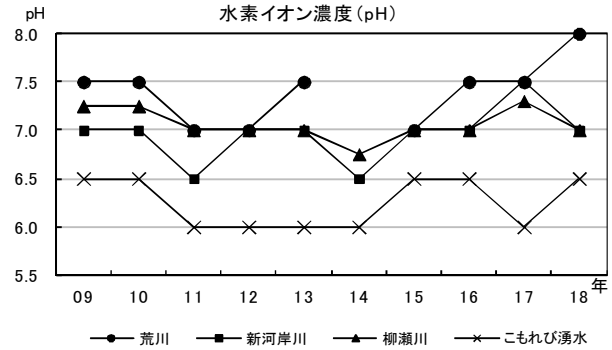
■ 2018年の測定結果と過去５年間（2014～2018）の平均値

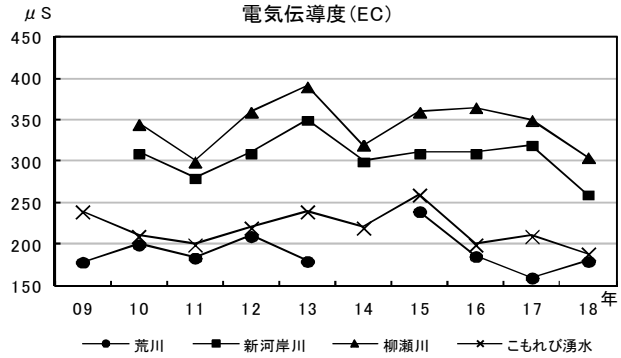
採水地点＼測定項目		水温 ℃		pH		EC μS/cm		COD mgO/L		NH_4-N mg/L		NO_2-N mg/L		透視度 cm	
		17年	平均	17年	平均	17年	平均	17年	平均	17年	平均	17年	平均	17年	平均
柳瀬川	志木大橋	26.0	23.7	7.0	7.0	320	340	8以上	7.2	0.2	0.9	0.05	0.24	95	105
	栄橋	25.0		7.0		290		8以上		0.2		0.05		113	
新河岸川いろは橋		20.0	19.8	7.0	7.0	260	300	4	4.0	0.2	0.6	0.05	0.05	50	58
新河岸川 宮戸橋		24.0	22.6	7.0	7.0	300	320	8	6.0	0.5	0.7	0.05	0.24	65	77
荒川秋ヶ瀬取水堰		23.5	21.4	8.0	7.5	180	192	6	4.0	0.2	0.3	0.02	0.03	30	51
こもれびのこみち湧水		16.5	16.6	6.5	6.3	189	216	0	0.0	0.2	0.1	0.005	0.004	127	128
東中央幹線		21.5	21.5	7.5	7.5	290	290	6	6.0	0.5	0.5	0.05	0.05	83	83

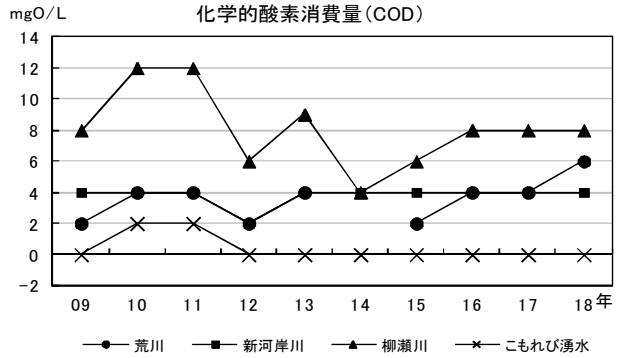
※ 各測定項目の左欄に2018年の値、右欄に過去５年間（2014～2018年）の平均値。柳瀬川は志木大橋・栄橋の平均とした。

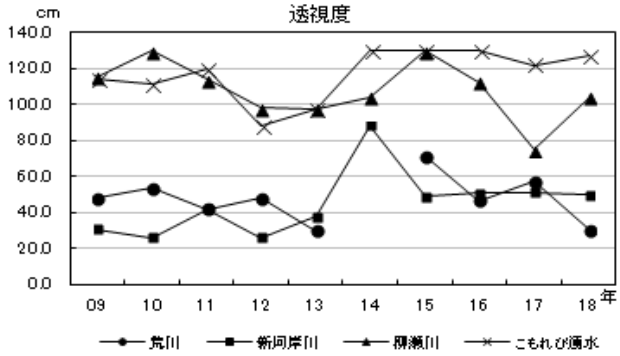
■ 2009 年～18 年　主な測定項目の主な採水地点別の経年変化　柳瀬川は志木大橋と栄橋の平均値









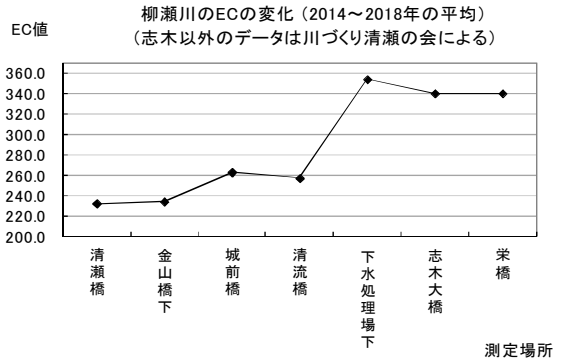


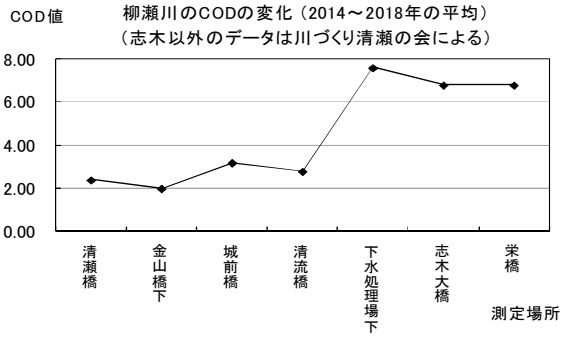
● 主な測定項目の傾向

水温：柳瀬川は高く、こもれびのこみち湧水は低い
pH：荒川は弱アルカリ性、こもれび湧水は弱酸性
EC：高い方から柳瀬川→新河岸川→湧水→荒川
COD：柳瀬川は高く、湧水は低い（ほぼ 0）
透視度：柳瀬川と湧水は高く、荒川と新河岸川は低い

● 柳瀬川の流下に伴う、清瀬地域からの変化

EC・COD ともに、清瀬水再生センター（下水処理場）の放流水が入ると大きく上昇する





■ **結果から見る河川・調査地点の水質の傾向**：各地点とも例年と大きな違いは無い。

柳瀬川【志木大橋・栄橋】：透視度が高く、きれいな印象。EC・COD・チッソ分とも高く、見かけほど水質は良くない。
新河岸川上流【いろは橋】：透視度が低く、汚れた印象。EC・ COD は柳瀬川より低く、水質は見かけほど悪くない。
新河岸川下流【宮戸橋】：概ね、合流前の新河岸川・柳瀬川の中間の数値を示す。
荒川【秋ヶ瀬取水堰】：今回 COD が 6 と過去最悪を記録。透視度も過去最悪値とほぼ同じ。採水時に約 500m上流で数台の水上バイクが走り回っており、これにより底質（川底の堆積物）が舞上げられた可能性が考えられる。
こもれびのこみち湧水：透視度は最高、COD・チッソ分は最低で非常に良好な水質。EC が高いのは湧水の特徴。
東中央幹線：今回初めて測定したが、流入先の新河岸川宮戸橋の数値に近い結果であった。

7月2日(月)・9日(月)

クビアカツヤカミキリの調査

エコシティ志木では外来生き物の調査を行っていますが、これに加え7月2日と9日の2回、クビアカツヤカミキリの調査を行いました。この外来のカミキリはバラ科の樹木を好みます。すでに県内にも侵入しており、2017年現在では、深谷、熊谷、行田、羽生、草加、越谷市で確認されています。この幼虫は、サクラやモモなどの樹木の内部を2～3年かけて食い荒らし、木が枯れる原因となります。県ではクビアカの拡大をくい止める方針ですが、今回調査もこの活動の一環と云えます。

調査はサクラを対象に行いました。2日は柳瀬川土手を中心に、9日はいろは橋の下流側いろは親水公園など両岸で行いました。手引きによれば、幼虫の食い荒らした木くずが根元にたまり、カリントウのようになる（フラスという）ので、先ずそれを確認すること、また、幹にある排出孔も確認します。サクラの木一本一本、根元を見て回りました。本数は2日185本、9日152本になりましたが、幸いにして確認できませんでした（成虫も）ので、その限りでは志木にはまだ侵入していないといえると思います。（成虫は体長25~40mm程度、頭の下前胸背板だけ赤く、他は黒いのが特徴です）

［写真：青木明雄］

（鈴木 民雄）

柳瀬川水族館

大分以前に開催していたものの、しばらく行っていなかった『柳瀬川水族館』は昨年から再開し、今年も6・7・8月の第3日曜日に開催しました。志木中学校前の柳瀬川堤防上の桜並木の下に水槽を並べ、その場で捕獲した柳瀬川の水生生物を展示し、通行人に見てもらっています。これは、柳瀬川の水生生物調査と市民に柳瀬川の自然を知ってもらうことを兼ねた企画で、また、会の活動のPRも行なっています。

9時にスタッフが集合。机・水槽・のぼり旗等の準備をしてから魚の捕獲に向かい、10時頃までに分類、名称を付け、展示開始です。

8月19日には県の広報紙『彩の国だより』に載ったこともあり、通行人以外の人も多数集まり、かなりにぎわいました。

［写真：青木明雄］

●6～8月の主な生き物（数の多いものから）

魚類：ウキゴリ、ヌマチチブ、マハゼ、シマドジョウ、ドジョウ、グッピー(外)、カダヤシ(外)、モツゴ、オオクチバス(外)

甲殻類：カワリヌマエビ(外)、スジエビ、テナガエビ、アメリカザリガニ(外)

ヤゴ：イトトンボの仲間、ハグロトンボ

他：ウシガエルのオタマジャクシ(外)、スッポン

（天田 眞）

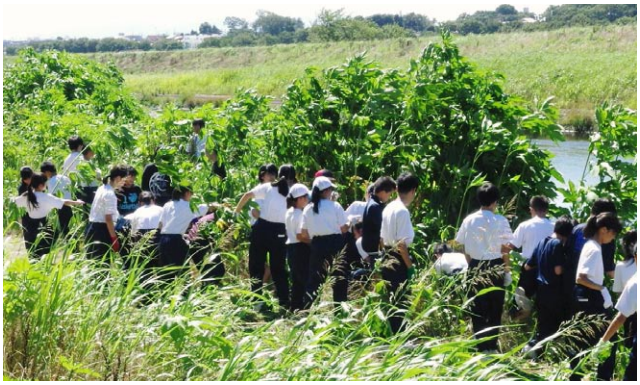
カヤネズミ原っぱの外来植物駆除作業

［写真：青木明雄］

いろは親水公園「ヨシ・オギ群落保全地」については、2013年度に8回の状況調査を行い、オオブタクサの繁茂の確認を行いました。その中で、カヤネズミの巣を発見し、カヤネズミ原っぱの愛称も生まれました。2014年2月18日に、香川志木市長とエコシティ志木とのふれあいミーティング（通信73号参照）に於いて、ヨシ・オギ保全地の状況を説明するとともに、保全の必要性と提案をさせてもらいました。近隣の学校などの協力をえて行えば、みんなで守っているという意識も生まれてくるのではといった意見もいただき、今年は近隣の中学校や高校に、チラシとポスターをもってご紹介しましたが、残念ながら参加者の確保に至りませんでした。5月から月1回の作業を行いましたが、8月5日には、社協からのボランティア3人の参加を得て、作業を行いました。今年は、富士下橋側から下流に向かっての作業に留まり、堤防下については、ほとんど手を付けていません。9月23日（日）に、「カヤネズミの巣をさがそう」を行う為、整備作業を2~3回予定しています。この時に、少しでもオオブタクサの駆除も行いたいと思っています。

（青木明雄）

柳瀬川の外来植物駆除



［写真：青木明雄］

6月29日、志木中学校と協働で、志木中学校前柳瀬川河川敷のオオブタクサの抜き取りを行ないました。約170名の生徒が参加、ローラー作戦の威力はさすがで、まだ小さいものから背丈を超えるものまで短時間で駆除することができました。

関東地方が梅雨明けをした暑い日で、気温も35度に迫りました。強めの風があるとはいえ、熱中症の危険を考慮し、当初1時間半の予定を実作業時間30分位に短縮し集中的に行いました。駆除範囲も狭め、土手の桜の木陰で休憩したり、こまめに水分補給を促したりしました。

生徒達は、丈の高いオオブタクサを2～3人で一緒に引き抜いたりして達成感も味わっていたようです。自然や環境保全に関心を抱くきっかけになることを願っています。

7月14日（6月、8月は天候により中止）、志木中との協働作業を行なった先の土手法面を中心に会員による駆除作業を行ないました。志木中前の土手の上から柳瀬川を眺めると、一羽のアオサギがいつも川の中の定位置に陣取っていて、時には食餌していたりします。また、河川敷に野鳥の卵が見つかったりもします。このような身近な自然を大切にしていきたいものです。

（庭野 恵子）

いろは通りの自然を訪ねて その2

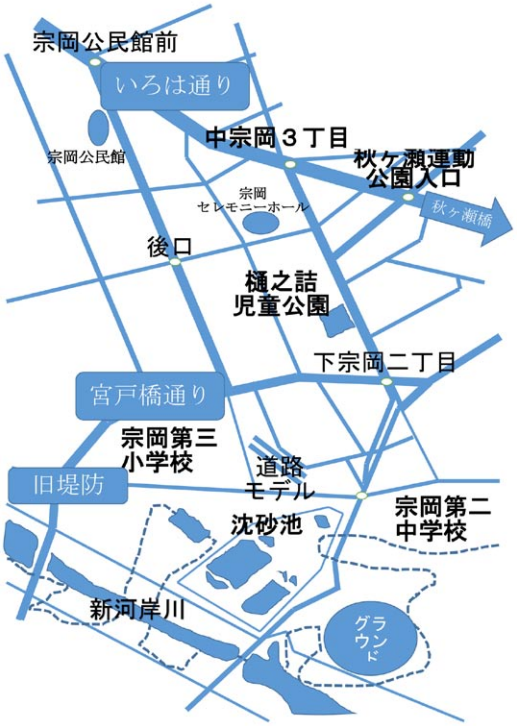
NPO法人エコシティ志木事務局長 青木 明雄

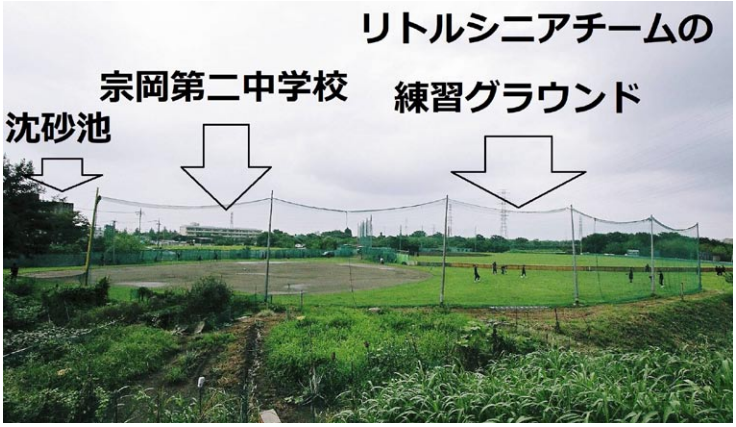
樋之詰児童公園

今回は、いろは通りの「秋ヶ瀬運動公園入口」から新宮戸橋までの通りと宗岡公民館通りとの間の周辺を散策します。先ずは、「秋ヶ瀬運動公園入口」から新宮戸橋に向かって歩いていきます。この道の下には、秋ヶ瀬取水堰で取り込まれた水を新宮戸橋手前の沈砂池まで流す地下水路（朝霞水路）があります。150m ほど先で大きく左に曲がっています。ここで、いろは通りの「中宗岡３丁目」からの道が合流します。ここからは、道路東側に用水路があり、宗岡第二中学校の籠嶌門樋まで真っすぐに流れています。宮戸橋通りとの交差点「下宗岡２丁目」までは、桜並木となっています。途中、水路と反対側に樋之詰児童公園があります。公園の広さは、1,453m² です。公園内には、遊具設備やベンチもありますが、クスノキやケヤキ等の高い樹木や、サクラ・タイサンボク・ハナミズキ・ハナモモなどがあり、花も楽しめます。公園北側には、３反ほどの田んぼがあり、広さを感じる公園になっています。更に公園の先に進んでいくと、宮戸橋通りとの交差点（下宗岡２丁目）の先で、いろは通りの「下宗岡３丁目」からの道と合流して、大きく右側に曲がります。「宗岡第２中学校」交差点で、旧堤防（惣囲堤）を越えて、新宮戸橋に続いています。合流してきた道路の下にも秋ヶ瀬取水堰からの水路があり、水が流れていましたが、不揃いな地盤沈下で使えなくなり、現在の水路に代わりました。大地震による被害を想定して、この水路を補強・再整備して再利用

宮戸橋通りと旧堤防の間にある農家

和光富士見バイパスモデル整備地区





新河岸川土手と宗岡第二中学校の間

するための工事が行われています。２つの水路の上の道路は、対向車線との間に低木が植えられ、植え込みの中に歩道があります。旧堤防を超えた右側に沈砂池があり、荒川取水堰からの水は、ここに流れてきます。この旧堤防と手前の宮戸橋通りの間には、まだ少し農地が残っています。近くの農家を訪ねたてみました。ここの農家では、以前養鶏場を営んでいたようですが、今は広い畑になっています。以前あった水塚の部分を平らにして、ブルーベリーを栽培していました。畑の隣の大きな建物は、茅葺屋根の上に瓦を載せてあるそうで、家の中からも屋根裏の骨組みを見ることができました。広い畑には、いろいろな作物があり、貴重な緑地となっています。ゴマの栽培はこの辺りでは珍しいそうです。宗岡第三小学校との間には、和光富士見バイパスモデル整備地区があります。この道路が完成すると、この辺りの様子もかなり変わってくると思います。旧堤防と新河岸川堤防の間は、あまり建築物や民家はありません。朝霞市との境界線が複雑に入り組んでいて、かつての新河岸川がかなり蛇行していた様子がうかがわれます。宗岡第２中学校のすぐ裏側は、朝霞市となっていて、またすぐに志木市になり、リトルシニアチームの練習グラウンドとなっています。周囲は農地もありますが、荒れ地が目立ち、雑草が生い茂り、アレチウリも高い木の上まで覆いかぶさっていました。沈砂池から上流の宮戸橋までの間も朝霞市との市境が入り組んでおり、旧河川の一部が釣り堀として利用されています。釣り堀の周辺には、田んぼが広がっています。いろは通りの中宗岡３丁目からの通りと宗岡公民館通りの間にも並行して狭い道が１本あります。この狭い通りと宗岡公民館通りの間には、鉢花生産のハウスが数多くあり、全体では、かなりの広さがあります。また、その先の宗岡セレモニーホール周辺から、中宗岡３丁目の通り周辺にも同様に鉢花生産のハウスがいくつも並んでいます。自然環境ということではありませんが、緑を生産する場所となっています。間の狭い通りを更に進んでいくと、盛り土の上に乗った稲荷社があります。狭いところですが、大きな銀杏の木があり、それなりの年数を感じます。今回の散策では、旧堤防と新河岸川の間は、旧河川が流れていた部分でもあることから、住宅は少なく、田んぼとして利用されている以外は、荒れ地となっている部分も多いことが良く分かりました。

新河岸川堤防と旧堤防の間

侵略的外来生物県民参加モニタリング調査を行ないました

［写真：青木明雄］

今年度もこれまでに、東上線両側の朝霞市内（6/18）、丸沼芸術の森等朝霞市上内間木地区（6/25）、富士見市新河岸川右岸（7/23）、竹間沢こぶしの里周辺（7/30）、清瀬旭が丘団地周辺（8/13）、所沢市パークゴルフ場周辺（8/27）の6区画を調査。

126種の対象植物の表を手に、知識豊富な先輩方の同定する種ごとに花や実の有無、株数等マークします。参加して一年余り、ようやく類似種の見分け方に注意を向けられるようになりました。以下現物を見ながら教えていただいた見分け方の一部です。

◯ウラジロチチコグサ（葉の表面は光沢あり裏は白い）とチチコグサモドキ（総苞に毛が多い）

◯ハルジオン（葉が茎を抱く、つぼみが垂れる）とヒメジョオン

◯ネズミムギ（芒が多い）とホソムギ

◯コマツヨイグサ（茎は斜上、花はしおれると黄赤色）とメマツヨイグサ（7/30、つぼみ、花、実をつけ茎が分枝した大株のそばにロゼットも確認）

道々、林でミンミンゼミやニイニイゼミの声を聴き、姿を間近に見、ゴンズイやアオハダの赤い実を観察。自然を五感で感じ、名前を知ることで世界が拡がることを実感します。　（庭野 恵子）

7月16日（月・海の日）

志木りんくす「柳瀬川水族館」～元気な生き物にたくさん会えるよ～

［写真：青木明雄］

エコシティ志木では、毎年夏に、放課後子ども教室『志木りんくす』と三芳町の『竹の子エコクラブ』から依頼を受けて、志木中学校前の柳瀬川で、魚捕り体験や水生生物の捕獲調査に協力しています。また、ちょうど同時期に当会主催の『柳瀬川で遊ぼう』もあり、毎年、類似の3つの企画が重なっていました。

ところが今年はちょうど台風の襲来に遭い、『柳瀬川で遊ぼう』と『竹の子エコクラブ』が中止になってしまいました。柳瀬川で遊ぼうは去年から連続の中止。竹の子エコクラブは17年目で初めての中止です。

3つの中で唯一実施できた『志木りんくす』は今年で7回目。小学校低学年の親子20組が参加しました。中心となる魚捕りは、志木中学校の正面の右岸。ここは緩いカーブの内側で、流れが非常に緩く子どもでも安全で、また、岸辺に草があり、生き物が隠れています。

魚の捕り方は「ガサガサ」と呼ばれる方法で、水中に草がある岸辺で、先端が平らになった網を立て、草の中の生き物を網に追い込んで捕らえます。コツを覚えれば簡単ですが、よく説明を聞かず自己流で捕ろうとする子どもはなかなか捕れません。捕まえた生き物は堤防上で水槽に分類し、川の話などと共に説明しました。　（天田 眞）

トンボの羽化

6月 5日（火）志木二小でヤゴ捕りで持ち帰ったヤゴが後日羽化。**❶ネキトンボ　❷シオカラトンボ　❸コノシメトンボ**など。また、**❹クロスジギンヤンマ**成虫がプールに落ちていた［天田 眞］

❺コオニヤンマ→ 6月 7日（木）去年から自宅で飼育していたヤゴが羽化［天田 眞］

❻オニヤンマ→ 7月 22日（日）こもれびのこみちで発見。さすがに大きい！［青木明雄］

❼モグラ→ 8月 17日（日）柳瀬川の土手で。尻尾を捕まえて半分引きずりだしたが逃げられた［青木明雄］

❽アオサギ→ 7月 14日（土）柳瀬川土手・志木中前の同じところにいます。時々、コサギやダイサギもいます。私が川に入ると逃げていき、川から出るとまた戻ります［青木明雄］

❶ ネキトンボ［天田眞］

❷ シオカラトンボ［天田眞］

❸ コノシメトンボ［天田眞］

❹ クロスジギンヤンマ［天田眞］

❼ モグラの穴［青木明雄］

❽ アオサギ［青木明雄］

❺ コオニヤンマ［天田眞］

❻ オニヤンマ［青木明雄］

環境 ひとくちメモ（49）　伊藤 智明

「アライグマ」

アライグマ（埼玉県ホームページより）

特定外来生物に指定されているアライグマは、北米原産の中型哺乳動物で、ペットとして輸入されて飼われていたものが、逃げたり放されたりして野生化し、全国で分布を広げており、人家に住み着いたり、農作物被害などを引き起こしたりして問題となっています。

埼玉県内では、比企地域を中心に急激に生息数を増やしていて、平成 26 年度以降、県内で捕獲されたアライグマは 3,000 頭 / 年を超えています。天敵がなく雑食性で強い繁殖力を持っていることから、このままでは今後さらに問題が拡大していくおそれがあります。

埼玉県では、アライグマによる被害を防止するため、外来生物法に基づき「埼玉県アライグマ防除実施計画（県計画）」を策定し、市町村においてアライグマの防除対策を実施しています。本来、アライグマの捕獲は、箱わなを使用するため、鳥獣保護管理法に基づき、原則として「わな猟免許」保持者でないとできませんが、県計画に基づき捕獲する場合に限り、県（もしくは市町村）が開催する研修を受講し、捕獲を行う地域を所管する市町村での従事者登録により、免許非保持者であってもアライグマの捕獲に従事することができるようにしています。

【出展】 埼玉県ホームページ
「外来生物法の概要」 http://www.pref.saitama.lg.jp/a0508/gairai/gairaihou.html
「アライグマ捕獲従事者研修会」 https://www.pref.saitama.lg.jp/a0508/araigumahokakujuujisha.html

☆会員状況

2018 年度更新済み（8 月 24 日現在）
正会員（個人） 36
正会員（団体） 2
賛助会員 2

★本会の財政基盤は、会員の方の年会費が頼りです。
★ 2018 年度の継続更新、引き続きよろしくお願いします。

■当会の団体正会員
志木おやこ劇場
生活クラブ生協志木支部

■当会の団体賛助会員
慶應義塾志木高等学校

■当会が参加している団体・ネットワーク・登録制度、及び協力団体
志木おやこ劇場
いろは遊学館利用者の会
志木市コミュニティ協議会
志木市社会福祉協議会
柳瀬川流域ネットワーク
新河岸川水系水環境連絡会
新河岸川流域川づくり連絡会
柳瀬川流域水循環再生市民懇談会
彩の国南西部地域ＮＰＯ連絡会
川の国応援団
埼玉県生物多様性保全活動団体登録
彩の国みどりのサポーターズクラブ
志木市公園美化活動会
志木市放課後子ども教室りんくす
志木市立教育サポートセンター
市内小中学校

情報満載！
当会のホームページ

ＮＰＯ法人エコシティ志木
http://kappa-no.net/eco-shiki/

志木まるごと博物館河童のつづら
http://kappa-no.net/

〈『いきもの図鑑』作業状況〉

二校版 195 頁ができました

二校版ができました。昆虫や樹木なども含めて、195 頁になりました。やっと全掲載種が収録でき、実質的な初校版になりました。用語解説の見直し、目次・索引の見直し、参考文献の掲載、奥付や裏表紙などを追加すると、200 頁を少し超えるものとなりそうです。7 月にプロジェクトメンバーに配布し、各チームで見直しを行っています。今回の図鑑のコンセプトは、市内を散策するときに持ち歩き、見つけた生き物の名前を調べるのに役立つものということで作ってきました。見つけた生き物についての、より専門的な解説は、別の図鑑に譲り、写真を増やしました。野草等の写真についても、美しい花の写真のアップというよりは、歩いていて見かける普通の姿が分かるものにしました。また、類似のものについては、見分け方の解説を入れました。昆虫については、市内で見かけるものをできるだけ多く掲載しました。樹木については、樹形が分かる写真に花の写真と実の写真を加えました。今回印刷してみて、花や実の写真が小さすぎるのが分かり、更に説明文を減らして、写真を大きくし、見やすくすることの見直しを始めました。（青木明雄）

志木の昆虫記36

街で出会える楽しい虫たち

天田 眞

《ジャノメチョウの仲間》

ジャノメチョウの仲間は、茶褐色の翅に小さな『蛇の目紋』が複数付いている蝶で、タテハチョウ科に含まれます。蛇の目紋の数・大きさ・配置等で種を特定できます。

蛇の目以外の共通の特徴としては、食草がイネ科（ササ・タケを含む）やカヤツリグサ科であること、蛹が尾部の１か所でぶら下がること（これはタテハチョウ科に共通）、多くの種で幼虫の頭部が猫の顔に似ている（耳のような突起がある）ことなどです。

サトキマダラヒカゲはこの仲間では大型（開張 58mm）で、翅の模様は蛇の目紋の他に波型の線が絡み合い複雑。明るい林を飛び回り、カナブンなどと共に樹液に集まりますが、腐った果物も好みます。薄茶色の幼虫は夜行性でササ類の葉を食べます。

ヒカゲチョウは中型（開張 49mm）で，模様は単純。特に前翅の表は模様なし。明るい林に棲み、樹液や腐った果物を好みます。幼虫は緑色で猫顔の耳は上に向かってぴんと延び、ササ類の葉を食べます。

ヒメジャノメは中小型（開張 43mm）で、明るい林縁や草地に棲み、樹液を吸います。止まっている時に、前翅と後翅に白線が真っ直ぐに入り、蛇の目紋がこれに沿って並んでいます。幼虫は通常緑色で頭部だけが茶色で、猫にそっくり。ススキやエノコログサのような草を食べます。

ヒメウラナミジャノメは小型（開張 36mm）で、林縁や草地で花の蜜を吸います。翅の裏側全面にさざ波模様があります。幼虫は薄い黄土色でチヂミザサなどを食べますが、刺激を受けるとポロリと地面に落ち、草の根元で丸くなって隠れてしまいます。

下の幼虫の写真は、どれも西原斜面林で草刈り・ササ刈りの際に見つけたものです。

サトキマダラヒカゲ

サトキマダラヒカゲ幼虫

サトキマダラヒカゲ蛹

ヒカゲチョウ

ヒカゲチョウ幼虫と頭部の脱皮殻

ヒメジャノメ

ヒメジャノメ幼虫

ヒメウラナミジャノメ

ヒメウラナミジャノメ幼虫

小笠原の旅

宇津木 美恵子

その９　写真で綴る小笠原（1）

最後は写真による小笠原の紹介です。断片的ですが、何か伝えられるものはあると思います。

❶ 印象的だった小笠原の道路標識

ノヤギ注意の道路標識

ヤドカリ注意の道路標識
「結構注意しにくい！」

❷ 母島って？

ははじま丸「父島から 50km 南、旅客船で２時間 10 分かかる母島」

都道の最南端（小笠原は東京都です！）北緯 26 度

❸ 夕陽

父島扇浦の夕陽（2016 年６月当時、日の入りは７時半頃）

❹ 様々な生き物たち

メジロ（父島）

ムラサキオカヤドカリ（父島）

父島の南にある無人島である南島にて
ヒロベソカタマイマイの半化石がぎっしり。（およそ 1000 ～ 2000 年前に絶滅したヒロベソカタマイマイは小笠原の固有種。南島はかつては森があったともいわれている）

シャコガイ
海の底、シュノーケルでたくさん見ることができる。いじると、キュッと閉じてしまう。

■以下、次号に続きます

編集後記

◇今年の夏は、各地に豪雨による被害をもたらす異常な気象が続いています。35 度以上が当たり前の猛暑となっています。エコシティ志木の活動も、猛暑との闘いとなりました。異常な行動をとる台風により、柳瀬川であそぼうは、２年連続の中止を余儀なくされました。代わりに、他の活動をお届けすることとなりました。（青木明雄）

エコシティ志木通信
第 91 号　2018 年９月１日
〈発行〉

NPO法人 エコシティ志木
〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108
電話/FAX　048-471-1338（天田眞）
URL　http://kappa-no.net/eco-shiki/
E-mail　eco-shiki@ff.e-mansion.com